

# 実践記録・自作学習材コンテスト

中之条町立中之条中学校 奈良寛嗣

## 1 主題（テーマ）

社会科における生徒の疑問や予想をもとにした単元開きの工夫

## 2 実践の目的

次年度から新教育課程が完全実施される。新教育課程のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の必要性がさらに高まる。その中の「主体的な学び」に結び付くのが、単元の課題設定であり、単元の見通しであると考え。群馬県教育委員会発行の令和2年度「学校教育の指針」の『「はばプラⅡ」を活用した授業改善のポイント～まずは、これから始めよう！～』社会科の欄に以下のようにある。

「つかむ」過程において、単元に関わる社会的事象について課題意識が高まる資料を提示して、児童生徒の疑問や驚きを基に、単元の課題を設定しましょう。

しかし、実際の普段の授業では、教師から一方的に単元の課題や、本時の学習課題やめあてを提示しがちになってしまうところがある。そのため、一体どんな単元なのかを生徒がイメージできないまま単元がスタートしてしまうことが多い。

「生徒の疑問でねらいに迫れる学習課題が本当につくれるのか？」

「単元計画の中でそんな時間ないよ！」

「それに時間をかけるなら、内容を教える時間にした方が効果的なのでは？」

以上のような理由で自身も正直実施できていない部分があったが、与えられた課題では主体的な学びとならない。今後生徒たちが社会に出たときには、誰かが課題を提示してくれるわけではなく、自分たちで課題に気づき、解決する力が必要になってくる。また、新学習指導要領で謳われている資質・能力、『学びに向かう力』を育成していくためには必須の活動であると考え。

そこで上記の、「本当に子どもたちに問いがつけられるのか」「単元計画の中でどのように時間を確保するか」という問題点を解決できるような実践を行い、自分たちで問いに気づき、自分たちで課題解決をする生徒を育成したいという思いから上記のテーマを設定した。

## 3 実践の方法

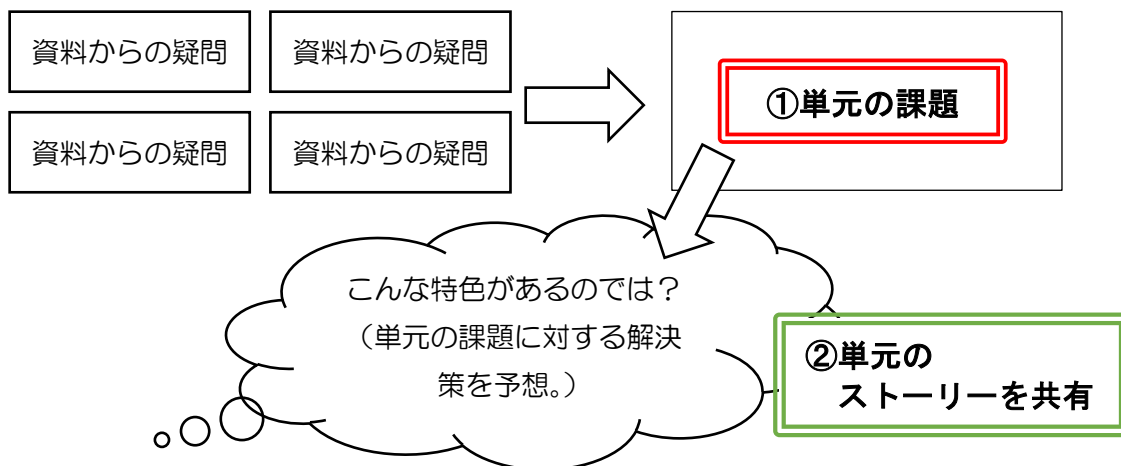
①資料や日常生活の疑問・驚きから学習課題をつくる

②学習課題の解決策を予想する。

単元に応じた型を用い、導入の授業で、生徒たちに知りたい、調べたいという思いをもたせ問いをもたせる。その問いをもとに単元の課題を設定し、単元のストーリーを共有できる活動になることをねらいとする。

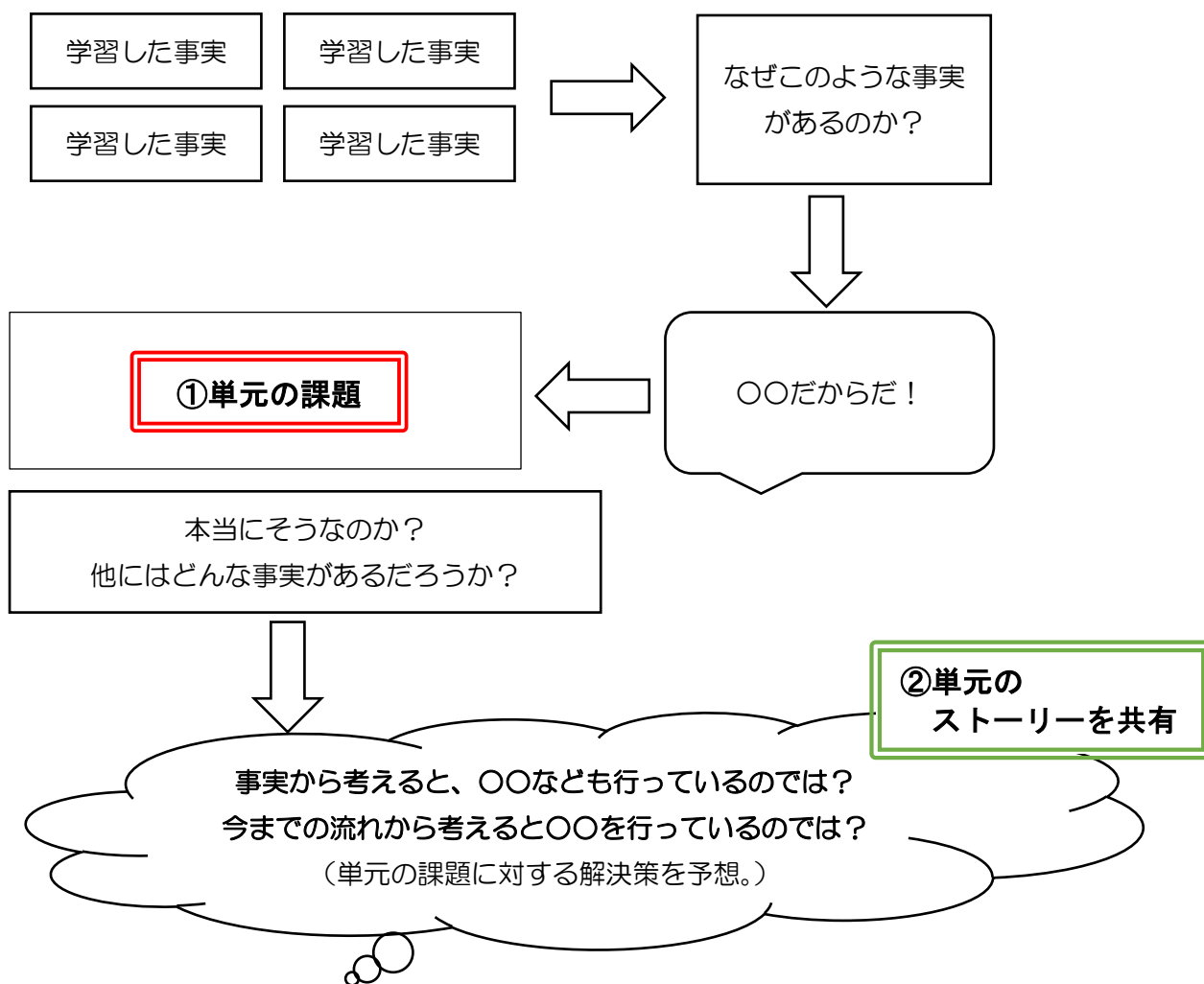
### 方法1 疑問つなぎ型

- ①資料をもとに疑問を出し合い、それらの疑問をつなぎ合わせて単元の課題を作成する。
- ②単元の課題に対する解決策を予想し、学習の見通しをもたせることで、単元のストーリーを共有する。



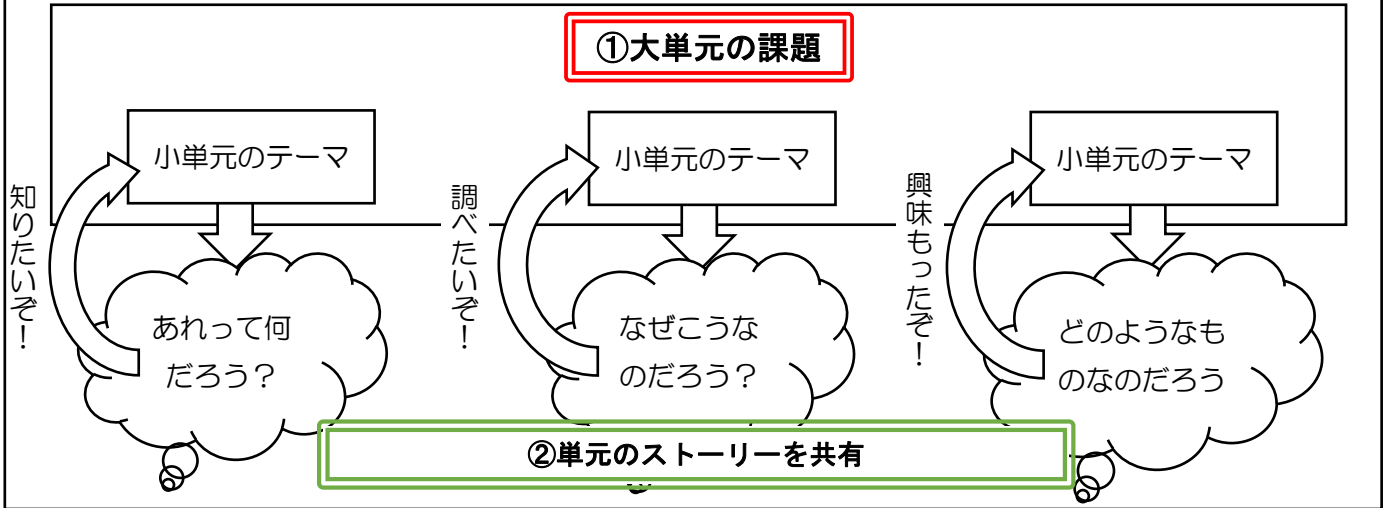
### 方法2 予想検証型

- ①学習した事実をもとに、疑問を出し合い、単元の課題を設定する。
- ②単元の課題に対する解決策を予想し、学習の見通しをもたせることで、単元のストーリーを共有する。



方法3 日常生活の疑問型

- ①大単元の導入の授業で、小単元名から考えられる日常生活で感じていた疑問を考えさせる。その生徒の疑問をもとに大単元の課題を設定する。
- ②生徒が感じていた疑問に対する予想を考えることで大単元のストーリーを共有する。



4 実践の経過と結果

実践 1

2年生歴史	欧米の進出と日本の開国	50分
-------	-------------	-----

単元計画 (全8時間計画、□は本時)

過程	時間	主な学習活動	評価の観点		
			知	思	態
つかむ	1	単元の導入			○
		18・19世紀の世界や日本はどのようなことが起こったのだろう			
追究する	2	近代革命の時代(1)	○		
	3	近代革命の時代(2)		○	
	4	産業革命と19世紀のヨーロッパ	○		
	5	ロシアとアメリカの発展		○	
	6	ヨーロッパのアジア侵略	○		
	7	尊王攘夷運動と開国の影響	○		
	8	江戸幕府の滅亡		○	
まとめる		イギリス、フランス、アメリカで革命・独立が起きて民主的な国がつけられたんだな。産業革命によって資本主義の世の中になり、それを批判する社会主義もうまれたんだな。アジアに市場を求めたアメリカが日本に開国を求め日本の鎖国が終わったんだな。開国したことで物価が上がるなど混乱があり、尊皇攘夷運動～倒幕運動につながるんだな。大政奉還を行い江戸時代が終わると大きく時代が変わり、新しい国づくりが始まるんだな。			

学習課題設定の時間を1時間設けた。『資料から課題をつくってみよう』というめあてで行った。4枚の資料は下の通りである。

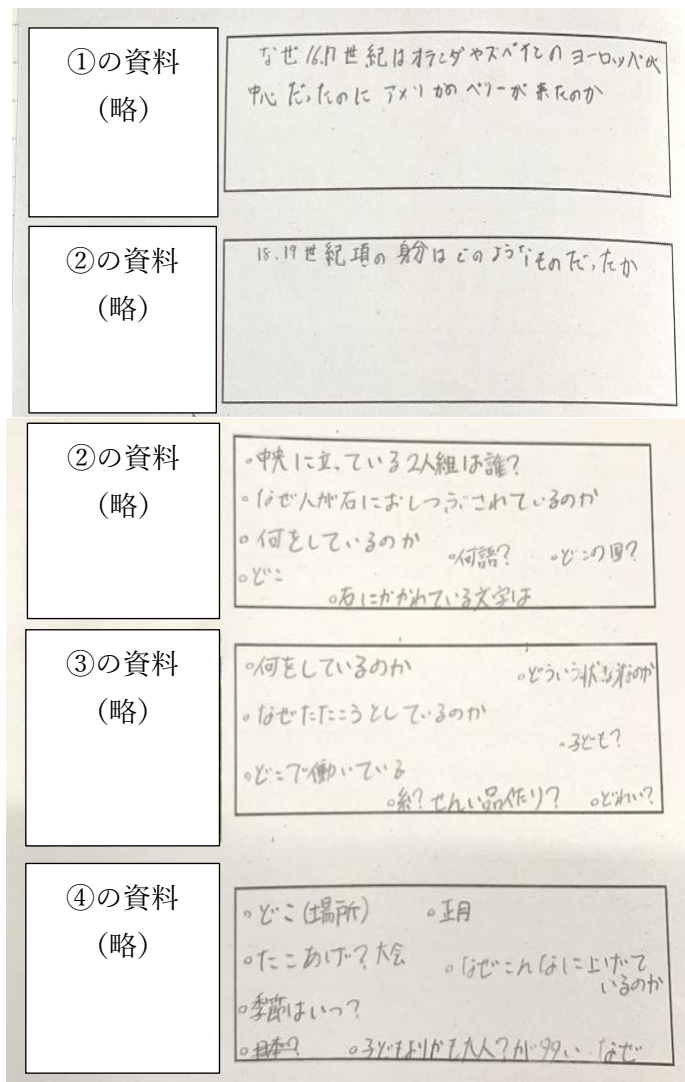
①の資料 (略)	②の資料 (略)	③の資料 (略)	④の資料 (略)
①ペリーの肖像画	②革命前のフランス	③産業革命後の向上のようす	④開国後の物価上昇を表した風刺画

生徒たちは「資料見ると読み取っちゃうなあ」と、いつもとは違う活動に苦労していた。

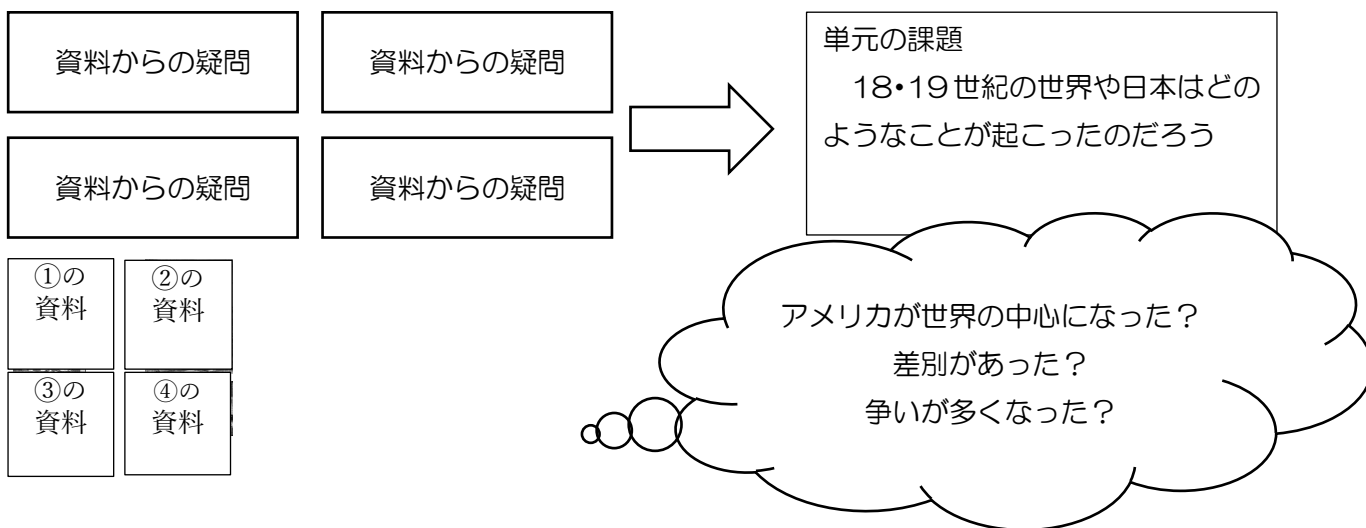
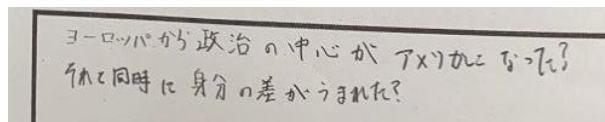
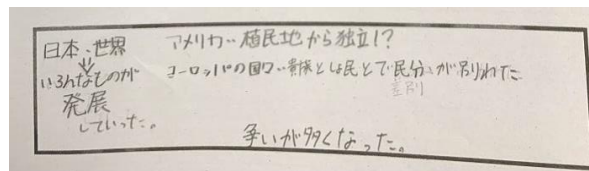
例えば②の資料では「石の上に乗っている人はキリスト教関係の人で…いやこれは読み取りだな。問いをつくる？ どういうことだ？」などの発言が聞こえてきた。無理やりに課題を作ろうとすると資料1で「ペリーはなぜ生きているのか」という社会的事象とかけ離れた思いつきのような疑問になってしまっていた。

しかし、時間をかけて考えたり友達と話したりすることで、少しずつ「なぜペリーは日本に来たのか」「そういや、アメリカはただの植民地だったけど、アメリカっていつ国になったけ？」「これはどこの国なんだろう？」「こどもみたいだけど、なぜ叩かれているのだろう。場所は工場みたいだな」「なんで風揚げしているんだろう」と既習事項を使って上手にを使って、調べたいと思うような問いをつくることができていた。

生徒の問いをつなげたり広げたりする中で『18・19世紀の世界や日本はどのようなことが起こったのだろう』という単元の課題を設定した。



先程の疑問を元に予想を立てる活動を行った。そうすると、「ヨーロッパから政治の中心がアメリカになった」「外国では差別が起こっていたのではないか」「日本は平和になって独自の文化が生まれたのではないか」と意欲的に予想しながら学習の見通しをもち、単元のストーリーを共有できた。



実践2 2年生歴史 明治維新

2年生	明治維新	20分
-----	------	-----

単元計画（全8時間計画、□は本時）

過程	時間	主な学習活動	評価の観点		
			知	思	態
つかむ	1	新政府の成立  外国に負けない強い国にするためにどのようなことを行ったか			○
追究する	2	明治維新の三大改革	○		
	3	富国強兵と文明開化		○	
	4	近代的な国際関係	○		
	5	国境と領土の確定	○		
	6	自由民権運動の高まり		○	
まとめる	7	立憲制国家の成立  三大改革として地租改正、学制、徴兵令を行ったんだな。産業面を発展させるため官営模範工場も作ったんだよな。条約改正を目指したけどまだそれは厳しかったんだよね。征韓論と国力の充実のどっちを優先させるかで政府内で揉めたんだな。征韓論派の板垣退助は自由民権運動へと発展していき、選挙を行い代表が国会で政治を行うことを主張したんだな。そこから憲法をつくる動きも出てきて、日本はアジア初の立憲制国家になったんだな。最初に思った強い国のイメージとは違うところもあったけど、ずいぶん進んだ国になったな。		○	

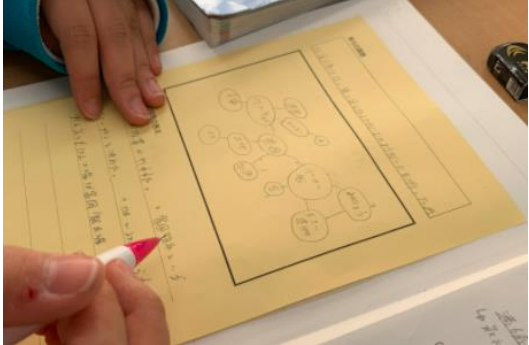
本単元の1時間目、「新政府はどのような改革を行ったか」という学習課題で、五箇条の御誓文、廃藩置県、解放令などを扱い、明治になり政治の方針や仕組みなどの様相が変わったことを理解した。

授業後段で

「ところで新政府はなぜ改革してるの？」

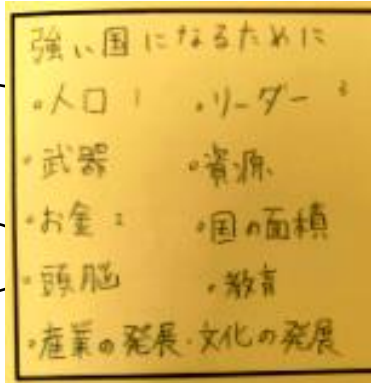
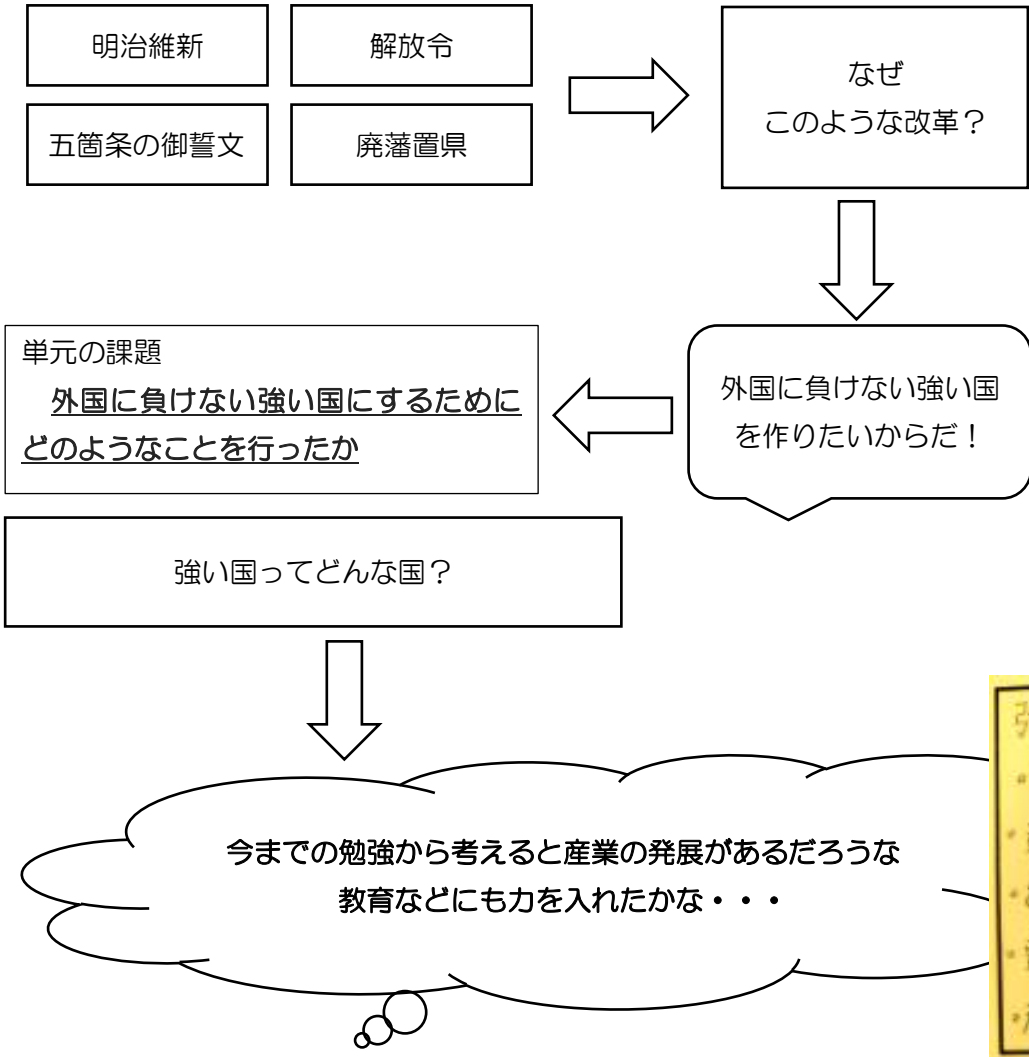
と問うと、生徒は、かなり曖昧なようす。

前回の単元から生徒たちが振り返る中で、「外国に負けない強い国にしたかった」という言葉ができてきたので、「外国に負けない強い国にするためにどのようなことを行ったか」を単元の課題に設定した。



「強い国になるにはどんなことやものが必要かな？強い国を素因数分解すると何でできている？」と発問すると、生徒たちは、何も見なくても、生徒間の対話をする中で、政治面、産業面、教育面、外交面など今まで学んだ知識を用いて、近代国家の様相をイメージとしてもつことができた。

「この単元は、みんながイメージした強い国に必要なものが本当に出てくるか、それ以外のこともあるのか、改革はうまくいったのか、みんなで検証していこう」と単元のストーリーを共有すると、単元の学習の見通しをもち、ストーリーを生徒自身がイメージし追究意欲をもつことができた。





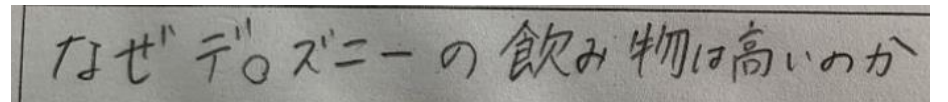
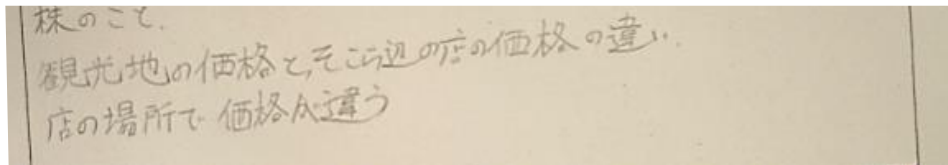
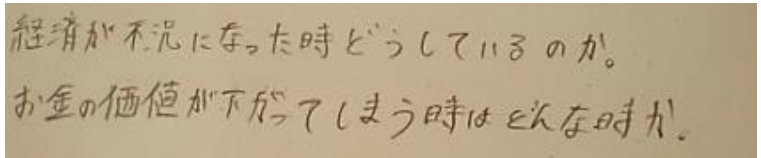
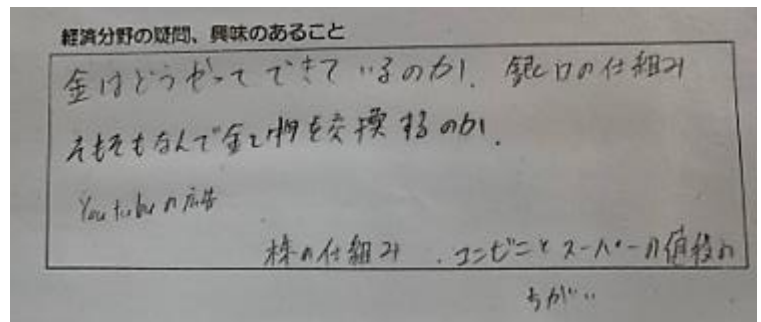
実践 3

3年生 公民	私たちの暮らしと経済	15分
--------	------------	-----

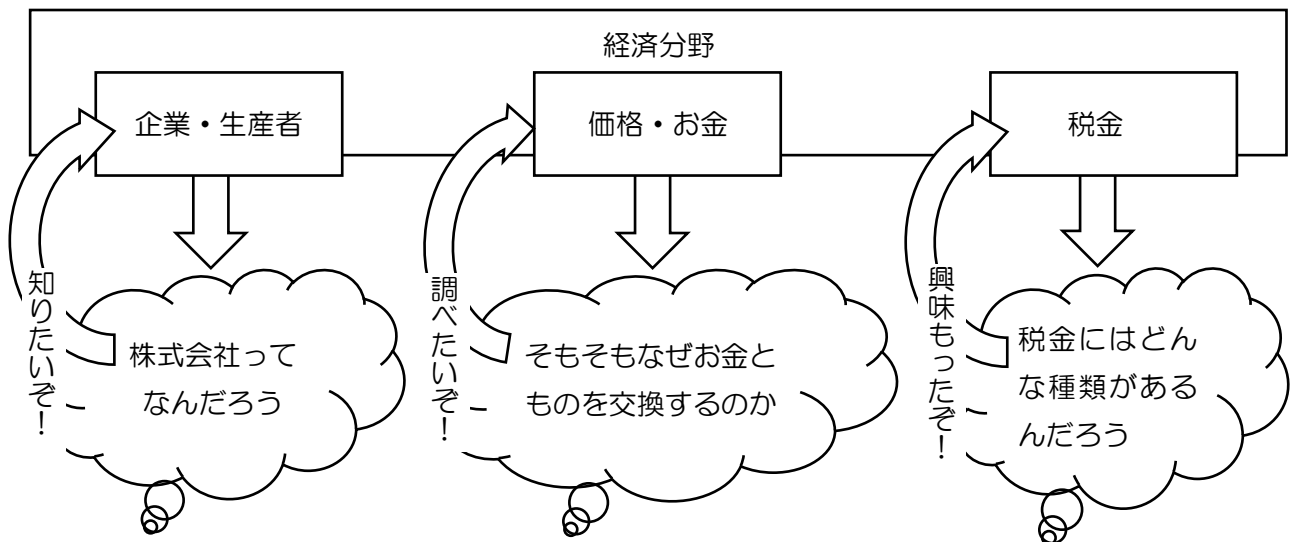
章の計画

単元名	配当時間	単元名	配当時間
章の導入（本時）	1	3 価格の働きと金融	5
1 消費生活と経済	5	4 政府の役割と国民の福祉	4
2 生産と労働	4	5 これからの社会と経済	4

第4章経済の導入として「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」を25分程度実施した後に、経済分野の単元の構成を説明した。「『消費』『企業・生産者』『価格・お金』『税金』これらの単元の内容から、日常生活で感じている疑問をできるだけ多く出してみよう」と指示をすると最初は悩みながら、周りと相談をしながら、一人2、3つずつ、少なくとも1つは疑問点が出てきた。全体で疑問点を共有し「なぜコンビニとスーパーでは値段がちがうのか」「株式会社とはどんな会社なのか」「税金は何に使われているのか」「なぜお金とものが交換できるのか」など、授業で調べるのに価値のある疑問がたくさん出てきた。



この時点で、大単元の課題を「これらの疑問をそれぞれの単元で解決していこう」とし、大単元のストーリーを共有した。そして、各々の小単元の導入で、「導入の授業でこんな疑問があったけど…」と生徒の疑問から始まる授業とした。



## 5 まとめ（成果と課題）

### 成果

- ・生徒は知りたいという思いや調べたいという気持ちをもっている。そして、その自分自身が調べたいことに気付く活動が単元開きには必要であり、授業に対して主体的に取り組む態度を育成する効果があったと考える。
- ・これからこの単元はどんなことを追究していくのか、単元のストーリーを共有し、現在地、道筋やゴールを実感し、これからどこに向かって学んでいくのが明確になる時間であったと考える。
- ・生徒に疑問をもたせるためには、疑問をもたせる活動や問いかけをすることが最も近道なのではないかと感じた。生徒が課題意識をもつことで、単元を通じた課題解決意欲を持続することができたと感じている。
- ・3年生でアンケートをとったところ、実践3で経済分野への興味が高まった生徒が比較的多かった。「自分が普段過ごして疑問に思ったことを知ることができた。」という生徒からの感想が出てきたのは、疑問をもたせる活動の成果であると考え。
- ・授業終わりや昼休みなどに質問に来る生徒が増加した。
- ・50分すべて使わなくても疑問をもたせる活動は行うことができた。
- ・単元の課題を生徒の言葉でつくることだけにこだわらなくても、こちらの発問によって生徒の知りたい気持ちを引き出すことも可能であるし、生徒の言葉をつなげ広げていく中で単元のストーリーを共有することができた。

T「なぜ改革してるの？」

C「強い国になるため」（生徒の言葉）

T「強い国には何が必要？」（疑問）

C「軍隊、教育、産業、お金…」（予想）

C「そんな全部できるかな？」「どれを最初にやったのかな？」「特に力を入れたものはあるのかな？」

T「この単元は明治政府がどのような改革を行ったのか、みんなの予想がどうなのか検証していこう」（ストーリーの共有）

### 課題

- ・生徒の疑問をつないだり広げたりしながら、授業のねらいに迫るための学習課題を設定することは簡単なことではなかった。
- ・実際には、なかなか全単元で実施することが難しく、時間の捻出も難しいところがある。
- ・生徒がもっている本当に知りたいという疑問を引き出すことが難しい。単なる「なぜ～だろう」のような形だけの疑問をつくるのでは効果は薄くなってしまう。
- ・教科書の仕立てがあるので、問いをつくってもその問いに沿った探究的な学習になりにくい側面がある。

### ※参考文献

『澤井陽介の社会科の授業デザイン』澤井陽介 2015

社会科教育 2020年 9月号 追究の鬼を育てる！子どもの問いを深める授業づくり

社会科教育 2019年 10月号 単元を貫く学習課題でつくる問題解決学習プラン